

自分の目と耳で確かめよう!

会社説明会・セミナー



会社説明会・セミナーって何?

会社説明会・セミナーは、企業が事業内容や業績、理念などの情報を直接学生に紹介する情報提供の場です。企業によって開催形式はさまざまですが、どれも企業について詳しい情報が得られる貴重なチャンス! 質疑応答の時間がある会社説明会・セミナーもあるので、疑問点があれば質問し、企業に対する理解を深めましょう。

➤ 大別すれば4タイプ

① 企業説明会

一つの企業が単独で開催する説明会です。その企業の採用担当者と現場で活躍する社員の方から、事業内容や採用方法などを直接聞くことができます。疑問に思ったこと、知りたいことを直接質問できるほか、その企業の実際の雰囲気を感じることができます。

② 合同企業説明会

一つの会場に複数の企業が集まって説明会を行います。予約が不要な場合が多いので、開催されていたら気軽に立ち寄ってみましょう。気になる企業のブースで事業内容や理念などの説明を受けることができます。

③ 学内企業説明会

大学のキャンパス内に企業の採用担当者が集まって開催されるセミナーです。参加企業はその大学の学生に対する採用意欲の高い企業や、キャリアセンターが薦める企業が多いので、ぜひ参加してみましょう。

④ 業界研究セミナー

選考には直接関係しないセミナーです。業界や仕事内容について理解を深めてもらうことを目的として開催されます。本格的な採用が始まる前の、比較的早い時期に開催されますので、情報収集として役立てましょう。

➤ 多くの企業が採用するWeb説明会

Web説明会はWeb会議システムを使い、PCやスマホから参加することができるオンライン型の説明会です。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、対面型の説明会形式から、オンラインで実施するWeb説明会形式に実施方法を変更する企業が増えています。Web説明会には大きく分けて以下の2種類の方式があります。

□ ライブ配信型説明会

決められた時間に企業がリアルタイムで配信するWeb説明会です。参加している学生からの質問に企業が答えてくれるなど企業と学生双方向のコミュニケーションが可能のため、従来の対面型説明会と同じような感覚で説明会に参加できるのが特徴です。

□ 録画配信型説明会

あらかじめ録画された説明会の動画をオンライン上で公開するWeb説明会です。ライブ配信型と異なりリアルタイムで企業とコミュニケーションをとることはできませんが、好きなタイミングで閲覧することができ、また気になる部分を繰り返して再生することができるのが特徴です。

➤ Web説明会で気をつけるべきこと

Web説明会では、PCやスマホ画面を通して参加するため、対面型の説明会に比べて気がゆるみがちになります。しかし、ライブ配信型説明会では、Web会議システムを通して双方向に繋がるため、参加時には対面型説明会と同様に緊張感を持って参加することが大切です。

参加時に気をつけるべきこと

- ◆ できるだけ自宅で参加するようにする
 - ※ 周りの騒音や不安定な通信環境により企業の説明会が聞きづらくなってしまう恐れがあるので外出先での参加は控えましょう。
- ◆ PCの場合、できれば有線LANに接続しておく
 - ※ 有線LANの接続ができない場合はWi-Fiルーターの近くなど、安定した通信環境を確保しましょう。
- ◆ カメラがオンになっても問題ない服装で参加する
 - ※ 企業によっては参加者のカメラをオンにしなければならぬ説明会もあります。事前に詳細を確認し、カメラがオンになってもよい服装で参加するようにしましょう。
- ◆ 発言時以外はマイクをオフにしておく

試験対策が勝負の分かれ道!

筆記試験・適性検査



内定獲得への第一関門

筆記試験・適性検査は面接を受ける人数を絞り込み、学生の基礎的な学力や適性を把握するため、多くの企業で実施されています。テスト形式は企業によってさまざまですが、この筆記試験を突破しないと企業の面接を受けることができません。筆記試験の傾向を知って、早めに準備をしておきましょう。

➤ 対策をしっかりと立てて臨もう

□ 適性検査

適性検査には2種類あり、能力適性検査と性格適性検査に分かれます。多くの企業では適性検査として、「SPI」を採用しています。その他の適性検査として、CAB、GAB、クレベリン検査などがあります。

能力適性検査

国語などの言語系能力と数学や理科などの非言語系能力の二つの分野を測定して、業務や職務を処理する能力を判断しています。

性格適性検査

仕事を行う上での性格適性を測定して、採用後の配属部署を決定する際の基礎資料としている企業もあります。

【対策】問題集を使って慣れよう!

能力適性検査の問題は、それほど難易度は高くありませんが、問題数が多いので時間配分を気にする必要があります。そのためにも問題集を1冊購入して、例題を解き、問題や時間に慣れておくようにしましょう。また、自分の得意分野と不得意分野を把握して対策を立てておけば良いでしょう。また、性格適性検査はあまり難しく考えず、リラックスして素直に直感で回答するようにしましょう。

□ 一般常識テスト

国語、数学、英語、理科、社会などの学生時代に学んだ基礎的な知識を問う問題や社会、文化、政治、経済、スポーツなどに関する出来事から出題される時事問題等、幅広い分野から出題されます。学生の基礎学力や知識量、社会への関心度を判断しています。

【対策】ニュースのチェックと基礎の復習を!

時事問題については、普段から新聞に目を通したり、ニュースを見るようにしておきましょう。また一般常識テスト

として出題される問題は、中学校や高校で学んだ内容の問題です。基礎的なことは教科書を復習するか、書店で販売されている参考書を1冊購入して、勉強しておくのが良いでしょう。

□ 論作文

学生が自分の考えを持っていて、それをまとめて文章で表現できるか、論理的に物事を考えることができているかなどを企業が判断するために行われています。文章表現によって、学生の人生観や価値観といった人柄(人間性)も評価しています。

【対策】文章を書く練習をしておこう!

論作文の対策で最も大切なことは、日ごろから文章を書くことに慣れておくことです。論作文の構成は起承転結が基本です。慣れるために実際に何度か時間配分を意識して書いてみましょう。書いた論作文をまわりの人に読んでもらい客観的な意見を聞くことも大切です。



あなたの熱意が運命を左右する！

エントリーシート



エントリーシートって何？

エントリーシートとは、企業が独自に作成した応募書類のことです。人気企業では、多くの学生からのエントリーがあるため、選考の第一段階として、エントリーシートで応募者を絞り込む企業が多くなっています。企業によって出題テーマはさまざま。採用担当者に「会ってみたい」と思わせる内容を書くことが大切です。

➤ 記入時は5つの点に注意しよう

① 具体的な内容を盛り込む

記述内容は、できるだけ具体的かつ分かりやすくまとめるのがポイントです。説得力を持たせるためには、自分自身の体験をもとに具体的なエピソードを盛り込むことが大切です。

② 面接で聞かれて困る内容は書かない

面接官はあなたの書いたエントリーシートを参考に質問をしてきます。記載内容について、どんな質問をされてもしっかり答えられるようにしておきましょう。誇張した内容やマニュアル本の引用など、質問されて困るような内容は書かないように心掛けましょう。

③ 一方的なアピールは控える

自画自賛した内容や表現があると、読み手には全く理解できなかったりすることもあります。また、企業側が求めるポイントとあなたのアピールポイントが違っているということがないように、これまで収集してきた情報をフル活用して、志望企業に合った自分のアピールポイントをチョイスしましょう。

④ エントリーシートは余裕を持って早めに提出を

提出期限を守るのももちろんのこと、できるだけ早めに提出しておくことをお勧めします。提出の締め切りはエントリーシートや採用ホームページなどに書かれていたりするので、しっかりとチェックし、提出期限に間に合わず断念するということがないようにしましょう。

⑤ 必ず下書きを

エントリーシートは記入前に必ずコピーをとっておきましょう。書き終えた後に、誤字・脱字がないかをチェックし、間違いを発見した場合は、修正液を使わずに、最初から書き直しましょう。また、面接前に再確認できるように、記入したシートのコピーも忘れずにとっておきましょう。

➤ 上手な作成はここに注意

いざエントリーシートを書き始めると、うまくまとまらずに頭を抱えてしまうことがあると思います。自己分析や企業研究、表現力が不足していたりと原因はさまざま。そんな時は、以下のことをチェックして、もう一度、整理を試みましょう。

□ 話題がばらばらになっていませんか？

たくさんのことを伝えようとして、話の要素を盛り込みすぎていませんか？限られたスペースの中で、伝えたいポイントをきちんとアピールするためにも、要点を一つに絞り込んで、内容を整理することが大切です。どれも中途半端で伝わらないということがないように、気をつけましょう。

□ “自分らしさ”が表現できていますか？

企業側は決して、あなたに特別な経験を求めているわけではありません。大切なのは、さまざまな経験を通してあなたが感じたことや価値観、そこから学んだことなどを伝えることです。そのためには、「なぜそうしたか？」「どんな風にやったか？」「その結果どうだったか？」「それらは自分にとって今後どう生かせるか？」などの視点でまとめていくと良いでしょう。

□ 書き方に工夫はできていますか？

ただ単に文章を羅列していませんか？少しでも見やすく、分かりやすくするためには書き方を工夫しなければなりません。文章にタイトルをつけたり、強調したいところを太字にしたり、アンダーラインを引いてみたりするなどの工夫をして、見た目のメリハリをつけましょう。全体のバランスを考慮しながらセンスよく仕上げましょう。

➤ 記入例を見よう

次ページは実際のエントリーシートの記入例です。これを参考にしながら、チェックポイントを確認していきましょう！

なぜ当社を志望したのですか。

貴社の企業理念である「業界リーダーを目指す」という思いに共感できたからです。

私は「有言実行、始めるからにはNo1を目指す」ということを座右の銘にしており、貴社は企業理念通り、他社にはない企画開発法で独自の企画を毎年打ち立て、業界シェア率トップを保っていることが専門雑誌で取り上げられるなど、理念が形に表されていることを知りました。この様子はまさに私が考える目標と同じであり、貴社の経営理念のもとで私もトップを目指したいと思い、志望いたしました。

入社後やってみたい仕事についてお書きください。

私は貴社の営業部において、顧客開拓をしたいと考えています。

私は大学4年間、新聞販売員のアルバイトをしてきました。新聞購読者と増やす仕事で話を聞いてもらえないことが多い状況でした。そこで私は読みやすい記事を持ち歩くなど、マニュアルにない工夫を行い、月5件が平均の新規契約の中、平均10件の契約を獲得してきました。私はこの経験から工夫次第でお客様の心を動かすことができることに魅力を感じ、同じく顧客開拓ができると説明会質問時に教えていただいた営業部で力を発揮したいと思っています。

あなたの長所を教えてください。

私の長所は考えたことを実行できる行動力です。

私は大学の留学生へサポートを行うサークルに所属していました。活動中、留学生は、日本人学生と交流する機会が少ないという話を聞き、私は両者の交流会を提案しました。幹事として会場設営や告知などの活動を行った結果、100人以上の参加者を集め、多くの交流を生み出すことに成功しました。この経験のように、考えたことを実行できることが私の長所だと思っています。

□ 「ここで働きたい！」という意思が伝わる

しっかりと企業研究が出来ていて、ある程度、自分の志望する会社の仕事について理解していることが分かります。そして「なぜそれがしたいのか？」という理由に関しても、具体性があり、目標に向かって立ち向かうという強い意思が伝わってきます。

□ 経験から成長したことをアピールする

ポイントの一つに絞って書くと良いでしょう。具体的なエピソードを述べ、そこから何を学んだか、得たことをどのように会社で活かすことができるかをまとめましょう。

□ エピソードが具体的かつ説得力がある

抽象的な内容だと、本当にそれがあなたの強みなのか分かりません。自分自身をうまく伝えるには、まず明確なイメージができるような具体性のあるエピソードで、裏付けをすることが大切です。

➤ エントリーシートの質問例と対策

□ Q1. 学生生活で最も力を入れたことは何ですか？

①音響エレクトロニクスの研究です。音に関する問題を広範囲に調べ、実用的な装置開発を目標に、超音波計測などを応用した研究に取り組んできました。予測していた結果が出ないなど、多くの問題にぶつかりました。問題発生時は、②仲間と解決方法を話し合う時間を設け、外部の有識者に会いに行き意見を聞くなどして解決方法を模索しました。この3年間で、③問題解決のために即座に決断し、行動にうつす力が身につきました。御社でも様々な問題に対応できる力として、活躍できる人間になりたいです。

◆ここがポイント

- ①具体的な研究内容が、簡潔に書かれている
- ②問題をどのように乗り越えたかが、具体的に書かれている
- ③経験から何を学んだかが分かる

□ Q2. あなたが学生時代に身につけたものは何ですか？

①物事を継続できる力です。中学の時に野球を始めた私は、「継続は力なり」という言葉を信じ、毎日1時間の素振り続けました。試合では日々の素振りを思い出し、一心不乱にプレーすることができました。また、②高校3年生の時には4番打者を任せられ、チームから信頼される存在になりました。この素振りは今も続けており、私が生活する上で大きな自信となっています。この経験から、私は社会に出て物事を継続させることで、自分を磨いていきたいと考えています。

◆ここがポイント

- ①言いたいことを文頭にもってくることで、主張をはっきりさせている
- ②努力の結果、成長したことが伝わる

□ Q3. あなたの強みは何ですか？

①私の強みは探究心、行動力です。高校時代から新聞部に所属し、②インタビュー内容を伝えることの難しさや、多くの人々に与える影響の大きさを肌で感じてきました。インタビューしたスポーツ選手から「諦めないこと」の大切さを学び、誌面づくりに妥協を許さない厳しさを自己に課してきました。さらに、③新聞社で2週間のインターンシップに参加し、先輩からレイアウトや記者としての話し方・聞き方・メモの取り方を学びました。それらの経験で培った探究心や行動力が私の強みです。

◆ここがポイント

- ①結論を文頭に書いているので、分かりやすい
- ②学生時代に学んだことが分かる
- ③意欲的な性格であることが伝わる

□ Q4. 企業を選ぶ際に重視する点は何ですか？

①私が企業選択時において重視する点は、以下の2点です。

- ◎自分の力が発揮できる環境が整っている
(理由:自分の持っている潜在的な能力を引き出せるような環境で、自分自身を高めていきたいと考えているからです。)
- ◎尊敬できる社員がいる
(理由:常に目標とできるような人を作り、刺激を受ける職場で働きたいという想いがあるからです。)

◆ここがポイント

- ①質問項目や回答内容によっては、箇条書きにすることで、分かりやすくなる

□ Q5. 入社したら、当社でどんなことをやりたいですか？

私は、貴社の○○○事業にて、新たな市場開発・開拓に取り組みたいと考えております。インターネットメディアが普及している中で、○○市場の課題を的確に読み取り、新たなメディアを発掘することは、今後さらに重要視されると思います。その際に、①私が学生時代に得た「物事を客観的に見据え考える力」は、市場開拓において武器になると確信しています。

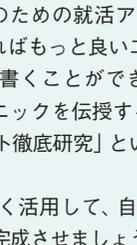
◆ここがポイント

- ①自分のセールスポイント・強みを、業務における適性としてアピールしている

「就活アプリ」でES徹底研究!



App Store からダウンロード



Google Play で手に入れよう

アプリの詳細は、「表紙ウラのページ」へ



採用試験の大きなウエイトを占める

面接

お互いの理解を深める「相互理解の場」

面接とは、学生にとっては「自分が満足して働ける企業か」、企業にとっては「自社に合う人材か」をそれぞれ見極めるための相互理解の場です。筆記試験のように優劣を測るためのものではなく、会話によるコミュニケーションを通じてお互いの理解を深めることを目的としています。通常、内定が出るまでに数回の面接が行われます。



➤ 面接にも色々な種類が

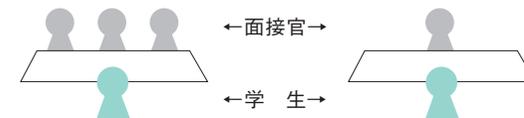
□ グループ面接

複数の学生が、一人あるいは複数の面接官と面接を行う、一次面接など選考の序盤に行われることの多い面接スタイルです。一人ひとりに与えられる時間が短いため、質問意図をつかみ、的確かつ簡潔に話すよう心がけましょう。また他の学生が答えている間の態度もチェックされるので、自分の順番が終わった後も気を抜かないように注意!



□ 個人面接

学生と面接官が一对一、あるいは学生一人と面接官複数で行う面接スタイルです。グループ面接に比べて面接時間は長くなるため、質問に対する回答はより具体的な内容を求められます。主に二次や三次面接で行われます。個人面接は学生にとっても熱意をアピールする絶好のチャンス! 質問者の目を見て一つひとつの質問に落ち着いて答えましょう。



□ グループディスカッション

学生数人で、決められたテーマに対し議論を行い、面接官がその様子を観察します。協調性、性格、知識や考えなどがチェックされます。話を進めるリーダー役や話を整理する書記役など、話し合いを進めるために自分が何をしなければならないかを意識し、行動することが大切。チームワークを重視し、議論を展開させることがポイントです。



□ プレゼンテーション面接

あらかじめ用意されたテーマに沿って、決められた時間内で自分の意見や企画を面接官の前で発表する面接スタイルです。相手に納得させるために、自分の意見や企画を筋道を立てて説明するなど、論理的な思考能力や幅広い見識が試されます。発表後には面接官からプレゼンテーション内容について質問されることもあるので、準備は入念に行いましょう!



➤ どんな面接も目的は同じ

面接のスタイルが異なっても、面接は自己PRや志望動機を企業に伝える場であり、コミュニケーション能力が試されていることに変わりはありません。志望動機を明確にし、自信を持って堂々と自分の魅力を伝えましょう!

➤ 面接の流れ

① 面接前

前日のうちに面接場所や開始時間、持ち物をチェックし、提出資料があればもう一度読み直しておきましょう。当日は遅刻をしないよう、少なくとも面接開始15分前には到着できるよう余裕を持って行動しましょう。

② 受付

受付で挨拶をした後、学校名と名前を告げ用件を簡潔に伝えましょう。会社に足を踏み入れた瞬間から、すでに選考はスタートしています。案内していただいたらお礼を言い、途中で社員の方と会った際には軽く会釈をしましょう。

③ 控え室

姿勢を正して静かに自分の番を待ちましょう。応募者同士の大きな声でのおしゃべりや、携帯電話を見ることがないように気をつけましょう。名前を呼ばれたら必ず「はい」と声に出して返答しましょう。

④ 入室

ドアをノックし、面接官の応答の後「失礼いたします」と言って入室。椅子の横に立ち、氏名を名乗り「よろしくお願ひします」と元気良く挨拶します。椅子には面接官に勧められてから着席しましょう。

⑤ 面接

カバンは足元に置き、背筋を伸ばして座りましょう。質問には面接官の目を見てハキハキとした口調で応答するよう心がけます。相手の目を見て話すのが苦手な人は、相手の額からネクタイの結び目までの間に視線を向けて話をしましょう。

⑥ 退室

面接が終了したら、その場で元気に感謝の気持ちを込めて「ありがとうございました」と挨拶をします。ドアの前で再度挨拶をし、静かにドアを閉めて退室。退室しても建物を出るまでは選考が続いているつもりで、気を抜かないようにしましょう。

➤ 面接前にはここに注意しよう

① 志望動機の確認

志望動機は必ずといっていいほど質問される項目です。何故その会社に入りたいのか？自己分析の結果を踏まえて志望動機を的確に説明できるようにしておきましょう。

② 自分の意見・考えをまとめる

面接でよく聞かれる質問のほか、注目されている話題やニュースをチェックし、自分なりの回答・意見・考えを用意しておきましょう。

③ 提出書類の再確認

面接では履歴書やエントリーシートに書いた内容について質問されることも多くあります。内容・誤字脱字のチェックも兼ねて提出書類の再確認をしておきましょう。

④ 確認・準備

当日慌てないように面接の受付・開始時間や、会場への行き方などを事前に確認しておきましょう。また、忘れ物が無いかチェックしておきましょう。

➤ 面接でよく聞かれる質問事例

□ 当社を志望する理由は？

その企業に行きたい理由を説明しましょう。そのためには企業研究をしっかり行い、その企業に対する理解を深めておくことが重要です。自分がその会社で何をしたいのか、どんな強みが発揮できるのかをアピールしましょう。

□ 自己PRをしてください

事前に自己分析をしっかり行い、自分の強みを明確にしておきましょう。強みを裏付けるエピソードを交えて話をすると効果的です。そのエピソードを通して、どのように考え、行動し、何を学んだのかも伝えましょう。

□ 他にどんな会社を受けていますか？

他社での評価や入社意欲を測る質問です。他社からの内定を隠したり、不合格についてまで細かく報告する必要はありません。

□ あなたの長所と短所は何ですか？

長所と短所は関連付けて話すと言語力が強くなります。短所を話すとき、大切なのは自分をどれだけ客観視できるか。短所は述べるだけでなく、その短所をどのように克服していくかを伝えるようにしましょう。

□ 学生時代に打ち込んだことは？

熱心に取り組んだことであれば、人とは異なる特別なテーマでなくても問題ありません。ただし、その経験に対して何を考え、そこから何を学んだのかを自分の言葉で語れるようにしておきましょう。

➤ その他にもこんな質問が

- 当社の商品についてどう思いますか？
- 10年後の自分像について教えてください
- 他社からも内定がでたらどうしますか？
- 最近印象に残ったニュースは何ですか？
- ゼミや卒論のテーマについて教えてください
- 企業を選ぶ際に重視することは何ですか？
- 当社の強みと弱みは何だと思えますか？

➤ 変わった質問を受ける場合も…

学生の意表をつくような質問を投げかけてくる企業もあります。これは対応力や自分の考えをわかりやすく説明する力などを見るものなので、正解がない場合も多くあります。深読みせずに素直に考えれば良いでしょう。また、黙ってしまわないように、回答の準備をしておきましょう。

- あなたを漢字一文字で表すと？
- あなたを色に例えると？
- あなたを動物に例えると？
- あなたが最も幸せを感じた瞬間は？
- 上司とあなたの意見が分かれたらどうしますか？

➤ 困った時はここに注意しよう

□ 困った質問の切り抜け方

面接官の立場になって考えよう

面接の質問の中にはどのように答えれば良いのか悩むようなものもあります。そんな場合には「この質問から企業は何を知りたいのか」と、面接官の立場になって考えてみましょう。できれば事前にある程度の質問内容を想定し、自分なりの回答を用意しておく、突然困った質問をされても焦らず対応できます。

□ 敬語の使い方

丁寧に話せば、多少の間違いはOK！

面接の際に「敬語に気を遣いすぎて考えていたことを十分に話せなかった」というのでは逆効果です。多少言葉遣いを間違えても問題ありません。それよりも話すべきことをきちんと表現することが重要です。ただし、学生言葉はNGなので要注意。相手を敬い「です・ます」調で丁寧に話すよう心がけましょう。

□ 目を見て話すのが苦手な人は

「アイゾーン」に視線を向けよう！

面接では、できるだけ面接官の目を見て話すようにしましょう。相手の目を見て話すのが苦手な人は「アイゾーン」と呼ばれる、相手の額からネクタイの結び目までの間に視線を向けておくと、相手には「きちんとこちらを見ている」ように映ります。

□ エントリーシートの活用

面接の資料に使われることが多い！

エントリーシートは書類選考だけでなく、面接の資料としても使われるので、面接の際にエントリーシートの内容について質問されることもよくあります。そのため、エントリーシートには面接で質問して欲しい事柄を中心に書いておくと良いでしょう。

➤ 企業を「逆面接」してみよう！

面接は学生が企業を見極める場でもあります。面接官に質問をする以外にも、受付の対応や社員の服装・身だしなみ、社内の雰囲気などもチェックしてみましょう。実際に感じ取り、自分なりの基準を持って、自分に最も合う企業を見つけましょう。

➤ 失敗してしまった時は…？

面接では慣れないうちは誰でも緊張してしまうものです。たとえ失敗しても落ち込まず、逆に次の面接の戒めにするのです。上手く答えることができなかった質問は、忘れないうちにノートにまとめ、対策を練りましょう。また、他の学生の話し方や立ち居振る舞いで「いいなぁ」と思ったものがあれば、それもメモしておき、次回以降の面接に活かすように心がけましょう。

⇒ Web面接・動画選考の注意点

Web上で面接を実施するスタイルや動画選考が近年、急速に広まっています。Webや動画ならではの気をつけるべきポイントを確認しておきましょう。ただし、Web面接や動画選考も、面接の内容や企業側の判断基準は対面での面接と大きな違いはありません。自己分析を行い、いかに自分をアピールできるかが大切です。伝えたいことを自分の言葉で話せるように、しっかりと練習することが大切です。

① Web面接の場合

□面接の前に準備しておくこと

①企業が指定するアプリなどの準備

- ◆事前に登録やダウンロードをして使い方を確認する
初めての人は家族や友人にお願いして、あらかじめ練習を重ねておくこと安心です。
- ◆ID、アカウント名、アイコンなどは就活用の適切なものにする

②場所選び

- ◆静かで、面接に集中できる環境を準備する
- ◆背景に余計なものが映らないように整理する
背景はなるべく壁だけになるように、部屋の中を整理しましょう。無地の壁をバックにするとさらに良いです。
- ◆できるだけ顔に影ができない場所を選ぶ
逆光にならないよう、照明を工夫するなどしましょう。机に白い紙を置くと顔が明るく見えるのでオススメです。
- ◆周囲の音に注意して、家族にも声をかけておく

③パソコン(スマホ)環境の確認

- ◆ネット環境を確認する
通信が安定する有線LANでつないだパソコンがオススメ。Wi-Fiの場合は、電波が常に強い場所を選びましょう。
- ◆パソコンにカメラやマイクがあるかを確認する
カメラが付いていない場合は、USBなどで接続できるWebカメラを用意しましょう。また、声が聞き取りにくい可能性を考慮して、イヤホンを用意するとよいでしょう。
- ◆使用する機器は前日に充電しておく
事前に留守番電話設定や通知音オフなどの設定もしておきましょう。
- ◆スマホの場合は、スタンドを使ってしっかり固定する
- ◆カメラの位置を顔と同じ高さか、少し高く設置する
カメラが上を向いていると、見下ろしているようなアングルになり、顔に影もできるため注意しましょう。

□当日の注意点

①身だしなみ

- ◆服装は上下ともにスーツを着用する
- ◆髪型はきちんとセットする
表情がしっかりと見えるよう、顔に髪がかからないようにし、清潔感のあるヘアスタイルを心がけましょう。

②開始前

- ◆開始10分前にはログインしておく
- ◆手元にメモ用紙とペンを準備しておく
ただし、面接中はメモを取ることに集中しないようにしましょう。

③本番(目線・話し方・表情)

- ◆面接官ではなく、カメラの方に視線を合わせる
対面では面接官の目を見て話すように、オンラインではカメラに向かって話すようにしましょう。
- ◆明るい声で、普段話す声量よりも少し大きめに話す
通信環境の問題で声が聞こえにくいことがあるため、ハキハキと一語一語少しゆっくり話すように意識しましょう。
- ◆常にこやかに
面接官が回線を切るまで笑顔で臨みましょう。

□通信が切れても落ち着いて対処しましょう

Web面接中に接続が切れてしまっても、慌てる必要はありません。電話で不具合が起きてしまったことを企業の担当者に連絡し、その後の指示を仰ぎましょう。

②動画選考の場合

動画選考は、自己PRなどの動画を自分で撮影し、企業に送信するものです。時間は30秒～1分、長くても3分以内のものが多いです。中には、撮り直し回数が決められている企業もありますので、指定された時間の中で収まるように、あらかじめ台本を作り、何度も練習して臨みましょう。また、服装は私服の指定がなければ、スーツで撮影し、髪型や身だしなみなどにも気を配りましょう。